

成長

海外では日本の事を
「奇跡の国」と呼ばれるが、
実際は
事態は深刻

第4号
9月
取り戻せ！

Japan is in danger

近年、若者を中心に大麻による検挙者が急増している。大麻使用のきっかけは「誘われて」「興味本位で」。インターネットなどでは「大麻は他の薬物より安全、害がない」、「大麻は依存にならない、いつでもやめられる」、「海外では大麻が合法化されているから安全」という情報があり、警戒心を薄れさせているが、そうした情報は誤り。大麻の有害性や依存性など正しい情報を知り、自分の身を守ることを考えるべきである。

近年、泉大津市内においても大麻が流出しているような情報もちらほら耳にする。近年はSNS等の発達によって大麻を入手しやすい環境にあると共に、様々な形状の大麻が出回っており、大麻に手を出す若者が増加傾向にあることは間違いない。

若者の間では、大麻を使用することが一種のファッションとして捉えられて罪の意識が希薄であることに、警察等の捜査当局は警鐘を鳴らしている状況にあるという。

中学生とて例外ではなく、スマホさえ扱えれば入手は難しいことではないという。例えばツイッターの中にもたくさん販売広告が出ている。それも足がつかないよう、密売人はツイッターから暗号化アプリ「Wickr」とか「Telegram」に誘導していく。

2019年3月、京都市内の中学3年の女子中学生が大麻とMDMAを所持していたことが発覚した事件があった。自宅で暴れていたと報じられていた。沖縄では高校生を含む、未成年者20名以上も検挙され、2020年3月には、新潟県で高校生が大麻所持で逮捕されている。

これらは全部ツイッターで仕入れたことが分かっている。ツイッターが入り口となって、密売人がそこにTelegram IDを書いて、足がつかない方に誘導するという。

密売人は、ITの進化に合わせてすごいスピードで進化している。そういう恐ろしい事実も皆さんに知ってほしいと思う。

保護者の皆様におかれましても大麻取締法違反の摘発が特に20代以下の増加が目立つ今、生徒たちのスマホに、そのようなアプリが入っていたらくれぐれも要注意という気持ちを持つことがとても大切な事です。なぜなら親の知らないところで、子どもたちが薬物を簡単に手にすることができてしまうわけですから。

薬物は自分の健康をむしばむばかりか、

最悪の場合、家族や周囲の環境をも破壊します。